

立地適正化計画の改定

～可視化ツールを活用した防災指針の検討～



京都府 舞鶴市 都市計画課

1.可視化ツールの有用性

なぜ可視化が必要なのか？

- ・ 説得力や理解度を高めることができる。
- ・ 視覚的な現状分析や課題発見が容易となる。
- ・ 誰にでも分かりやすい情報発信が可能となる。
- ・ 有用性が認識されやすく、組織内で更なるデータの蓄積・共有が期待できる。
- ・ 活用を広げることにより、部署間の横断的な課題解決やアイデアの創出が期待できる。



補注：都市視覚化計画、地理院地図を使用

2. 舞鶴市立地適正化計画と洪水ハザードマップ

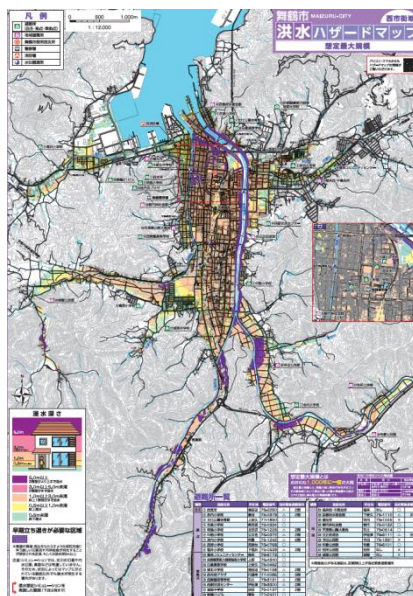
① 計画の概要と公表している情報

西地区

居住誘導区域
都市機能誘導区域

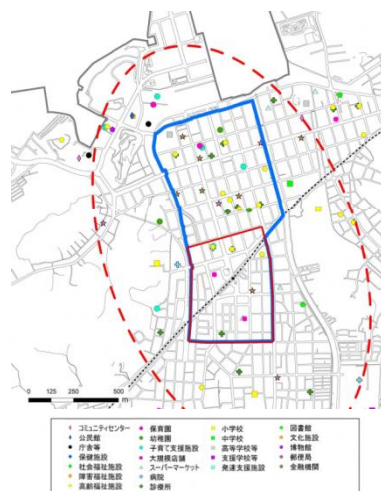


▲ (図) 舞鶴市立地適正化計画より

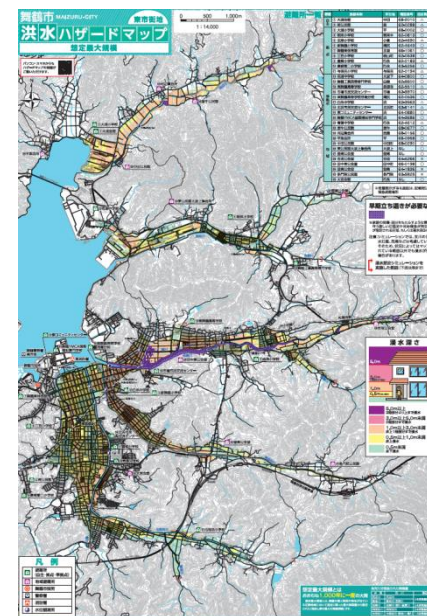


▲ (図) 舞鶴市洪水ハザードマップより

東地区



▲ (図) 舞鶴市立地適正化計画より



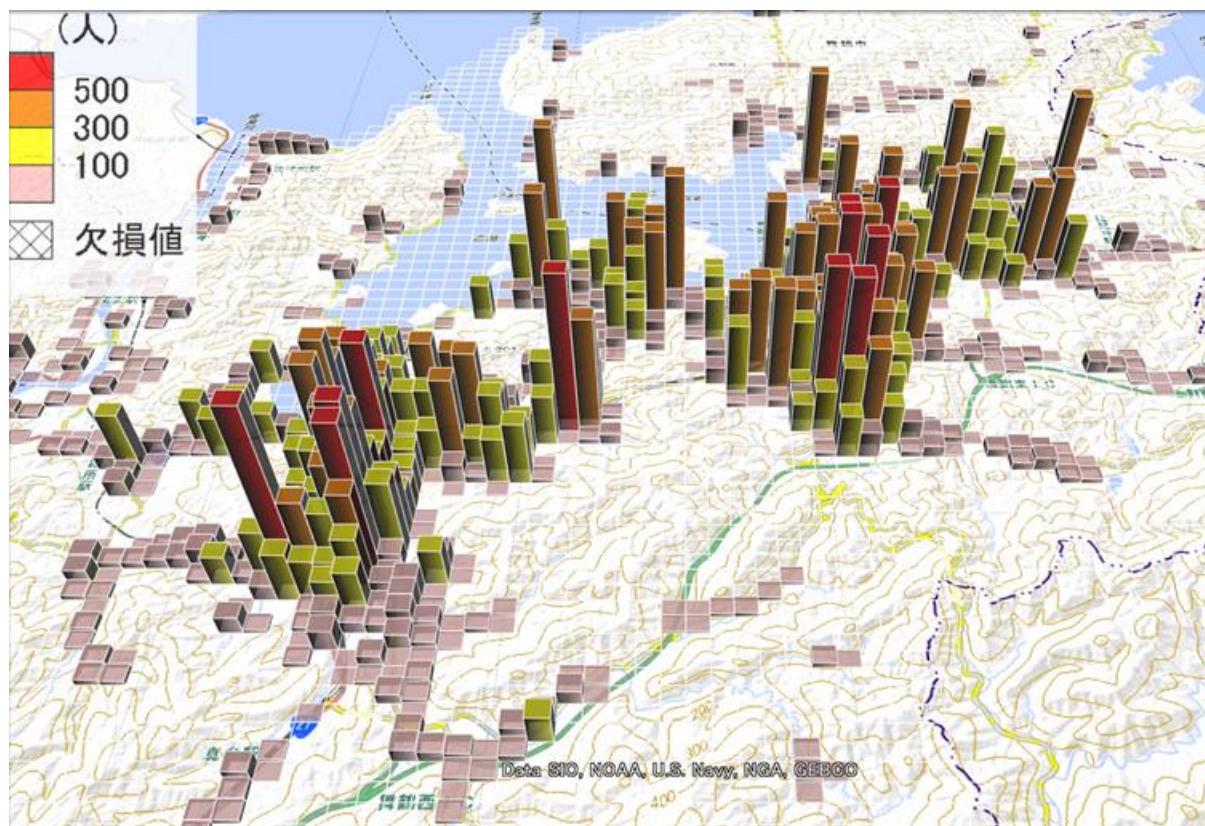
▲ (図) 舞鶴市洪水ハザードマップより

- ・東西が共に発展した複眼都市であり、両地区の鉄道駅を中心に各々誘導区域を設定
- ・公共交通機関で繋がった両地区が、ひとつの生活圏として機能するまちを目指す
- ・コンパクトシティ実現を目指し、市街化区域に対する居住誘導区域の面積割合が非常に低い
- ・居住誘導区域の多くのエリアが浸水想定区域となっている



3.市街地における人口分布

人口分布を可視化！



出典：2020年国勢調査 250mメッシュ人口データから作成

補注：地理院地図を使用



視覚的にイメージ
しやすくなる

4. 浸水想定区域と人口分布

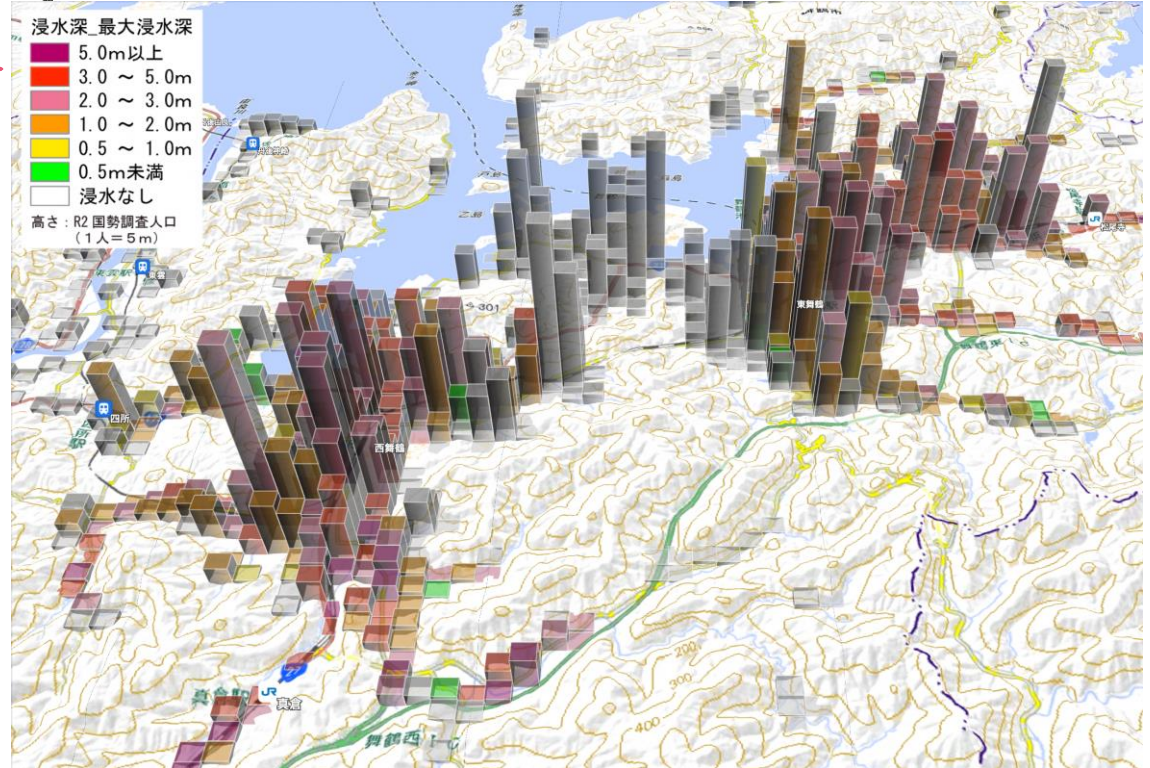
浸水深データ（6ランク）と人口分布を重ね合わせ !!

浸水深を色分けし、
人口を高さで表示

技術支援により
改善



メッシュ内の浸水深ランクで面積が最大のランクを表示

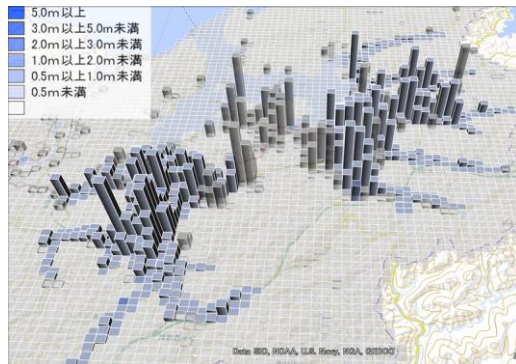


出典: 2020年国勢調査 250mメッシュ人口データ、舞鶴市洪水ハザードマップから作成

補注: 地理院地図を使用



各メッシュの中心点の浸水深を表示



出典: 2020年国勢調査 250mメッシュ人口データ、舞鶴市洪水ハザードマップから作成
補注: 地理院地図を使用



浸水ランク毎の
居住人口が分かる

5.可視化ツールの活用

会議資料に活用



舞鶴市立地適正化計画改定検討委員会での
会議資料（防災指針に関する説明）に活用

6.まとめ

課題と活用に向けて

- ❖ 庁内で使用しているGISの活用度合（地図上への各種データのプロット）が部署間で差があり、データ化&共有化が課題。データの可視化の前提として、この状況を改善することが必要。
 - （例）→EXCELでリスト（住所）管理
 - 冊子作成委託業者からの成果品（地図データ）がPDF
- ❖ 活用を広めるには、当課から積極的に可視化データを利用した資料作成や活用事例の紹介を行い、有用性をアピールする必要がある。
- ❖ 庁内システムのセキュリティ上、関連ソフトが利用できない。
- ❖ 専門知識を有する人材の育成が必要
 - 💡 外部委託しているデータ作成を自前で行うことができるようになる！
- ❖ 人口が少なく市街地が狭い地方都市のため、政府統計の250m人口メッシュでは分析に不十分
 - 💡 固定資産台帳データを使用し、人口メッシュの精度向上に挑戦！
- 💡 水道の閉栓情報から市内の空家データを作成予定！



まいづる



ツルいい! ほど
魅力あふれるまち



京都府北部 日本海側に位置する港町

